

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施計画書（3年次）

1 研究の概要

(1) 研究主題

「地域観光の活性化 ～ホンモノの小樽にふれあう～」

(2) 研究目的

観光都市小樽において、地元企業から即戦力として求められる生徒の育成及び生まれ育った街への愛着心の育成を目的とし、外国人観光客へのコミュニケーション能力を含めた「ホスピタリティ」の対応力の習得及びイベント等の企画力・運営力の育成、地元貢献できる資質・能力の向上を目指す。

(3) 研究目標

高校卒業後又は進学先の教育機関卒業後に地元企業への就職を選択した生徒の割合及び業務内容について追跡調査を行い、高校時代に習得した知識・技術がどのように生かされているかを把握するとともに、調査結果を踏まえ、教育活動の内容を改善するPDCAサイクルの確立を目指す。

観光客等へのアンケート調査により、地域観光の活性化を評価する。

本事業の地域観光の活性化への貢献度について、外部関係者による評価を実施する。

(4) 研究内容

外部講師等を活用し、小樽の歴史や現状と課題を理解させるとともに、ホスピタリティ・マインドの醸成に向けた取組を行う。

観光客のニーズや満足度について、アンケート調査を実施し把握する。集計データや地域経済分析システム RESAS 等を活用し、課題解決に向け観光協会へ提案を行う。

生徒自身が「おたる案内人検定」の資格取得に取り組むとともに語学力のスキルアップを図り、小樽観光大学の協力を得て、訪日観光客等へ小樽観光ガイドを行う。

これらの活動を通じて、本校生徒の意識変化を調査し、地元が望む即戦力としての生徒の育成が観光産業の活性化につながることを提示する。

(5) 研究方法

本校ウェブページ上でアンケートを実施し、アンケートの集計結果から改善を図る。（クラウドの活用）

(6) 実践研究の規模

流通マネジメント科（1～3年次）及び情報会計マネジメント科（1～3年次）において実施する。

(7) 研究成果の普及

学校ウェブページ、高校教育課が開設した SNS、新聞やテレビなどのメディアを通して実践研究の取組状況や成果についての情報発信を積極的に行う。また、教育研究協議会等において、実践研究の取組状況及び成果の発表や資料配布を行うなど積極的に情報発信を行う。

2 研究主題

地域観光の活性化 ～ホンモノの小樽にふれあう～

3 研究の内容等

(1) 解決に取り組む地域の課題

- ・小樽市で実施した小樽観光の満足度調査では、冬季の満足度が微増しているが、他の季節は減少傾向にある。この課題を解決するためには、満足度を高めるコンテンツの掘り起こし及びブラッシュアップ、並びに観光客へ訴求したコンテンツの開発が必要である。
- ・観光客を迎える地元商店街をはじめとする市内企業等において、外国語によるコミュニケーションを図ることができる人材や商品開発及び販売促進など専門的な知識・技術を備えた人材の確保・育成が課題である。
- ・小樽市は、高校生をはじめ市民全体が小樽の魅力を変えて認識し、その魅力を守り育て、地元で愛着を持ち、地域活性化の中心的な役割を果たすことを望んでいる。

(2) 研究目的と目標

(研究目的)

観光都市小樽において、地元企業から即戦力として求められる生徒の育成及び生まれ育った街への愛着心を育成することを目的とする。特に外国人観光客へのコミュニケーション能力を含めた「ホスピタリティ」の対応力の習得及びイベント等の企画力・運営力の育成、地元で貢献できる資質能力の向上を目指す。

(研究目標)

高校卒業後又は進学先の教育機関卒業後に地元企業への就職を選択した生徒の割合及び業務内容について追跡調査を行い、高校時代に習得した知識・技術がどのように活かされているかを把握するとともに、調査結果を踏まえ、教育活動の内容を改善するPDCAサイクルの確立を目指す。

(3) 研究内容

(内容)

商業科の科目において外部講師等を活用し、小樽の歴史や現状と課題を理解させるとともに、ホスピタリティ・マインドの醸成に向けた取組を行う。

観光客のニーズや満足度を把握するために、校外におけるアンケート調査を実施する。集計したデータや地域経済分析システム RESAS 等を活用し、グループによる協働学習を行い、課題解決に向け観光協会へ提案を行う。

生徒自身による観光ガイドの実践を目指して「おたる案内人検定」の資格取得に取り組むとともに語学力のスキルアップを図り、取得後は小樽観光大学の協力を得て、訪日観光客へ小樽観光ガイドを行う。

(別紙様式)

(方法) 本校ウェブページにアンケートを作成し、入力されたデータを集計し、アンケート結果から改善を図る。(クラウドの活用)
(教育課程上の位置付け)
(1年次) 商業「ビジネス基礎」、「情報処理」、「マーケティング」、「簿記」 外国語「英語表現Ⅰ」、「総合的な探究の時間」
(2年次) 商業「観光一般」、「総合実践」、「広告と販売促進」、「プログラミング開発」、国際理解「隣国コミュニケーション」
(3年次) 商業「ビジネス実務」、「課題研究」

(4) 実践研究の規模

流通マネジメント科(1～3年次)及び情報会計マネジメント科(1～3年次)において実施する。

(5) 研究成果の普及方法

学校ウェブページ及び高校教育課が開設した SNS、並びに新聞、テレビなどのメディアを通して実践研究の取組状況や成果についての情報発信を積極的に行う。また、教育研究協議会等において、実践研究の取組状況や成果について発表や資料配付を行うなど積極的に情報発信を行う。
--

(6) 3年間の研究計画

研究年度	研究内容
平成30年度 (1年次)	(1年次の重点) 小樽の現状と課題の把握及びホスピタリティ・マインドの醸成 (取組内容) ・「しゃこ祭」の企画、運営への参加
令和元年度 (2年次)	(2年次の重点) 小樽の課題に対する改善策の検討、提案及び実施 (取組内容) ・「お茶会」の実施 ・「おたる潮まつり」における地域貢献 ・販売促進のためPOP作成 ・「しゃこ祭」における新規事業の提案 ・「雪あかりの路」のウェブページ作成協力 ・「おたる案内人検定」の取得 ・ホスピタリティ・マインドの醸成に向けた取組(商業科目)
令和2年度 (3年次)	小樽観光の在り方について、地域との連携及び充実 (取組内容) ・「お茶会」の実施 ・「おたる潮まつり」における地域貢献 ・小樽観光に係る地域向けプロモーションビデオの作成

	<ul style="list-style-type: none">・「おたる観光ガイド」の実施・「雪あかりの路」ガイドブック作成協力・小樽観光に係るプロモーションビデオの作成・ホスピタリティ・マインドの醸成に向けた取組（商業科目）・成果発表会の資料作成 <p style="text-align: center;">（実施イベントと各種アンケート分析結果）</p>
--	---

(7) 令和2年度の実践計画

4月	<p>○地元企業が要望する人材アンケート（3時間）</p> <p>「総合実践」地元企業が求める人物像の探究</p> <p>「プログラミング開発」webを活用したアンケート作成および集計</p> <p>「情報処理」ビジネス情報の処理と分析</p> <p>連携・協働機関：小樽商工会議所</p> <p>実施場所：本校</p> <p>設備・機器：タブレット（[使用目的]グループ討議、アンケートの作成、[使用頻度]毎時間）</p>
5月	<p>○インバウンドとのコミュニケーション（8時間）</p> <p>「英語表現Ⅰ」コミュニケーションの基本</p> <p>「隣国コミュニケーション」基本的な挨拶</p> <p>「ビジネス実務」ビジネスマナーの実践</p> <p>実施場所：本校</p> <p>設備・機器：タブレット（[使用目的]カメラでの撮影、振り返り、 [使用頻度]毎時間）</p> <p>自動翻訳機（「使用目的」外国語による会話、[使用頻度]毎時間）</p> <p>実習教材：「基本的な会話」</p>
6月	<p>○地元の小中学校に向けた小樽の歴史紹介</p> <p>「総合実践」日本遺産（北前船・炭鉄港）の視点から捉えた小樽の歴史紹介のパンフレットの制作・配布</p>
7月	<p>○地域みらい連携会議（第1回）</p> <p>○お茶会（12時間）</p> <p>「ビジネス基礎」ビジネスとコミュニケーション（4時間）</p> <p>「総合実践」インバウンドを対象とした体験型アクティビティの提供による日本文化の紹介</p> <p>「広告と販売促進」効果的なポスター制作</p> <p>「課題研究」日本文化や小樽の歴史の地域プロモーションビデオの制作および放映</p>

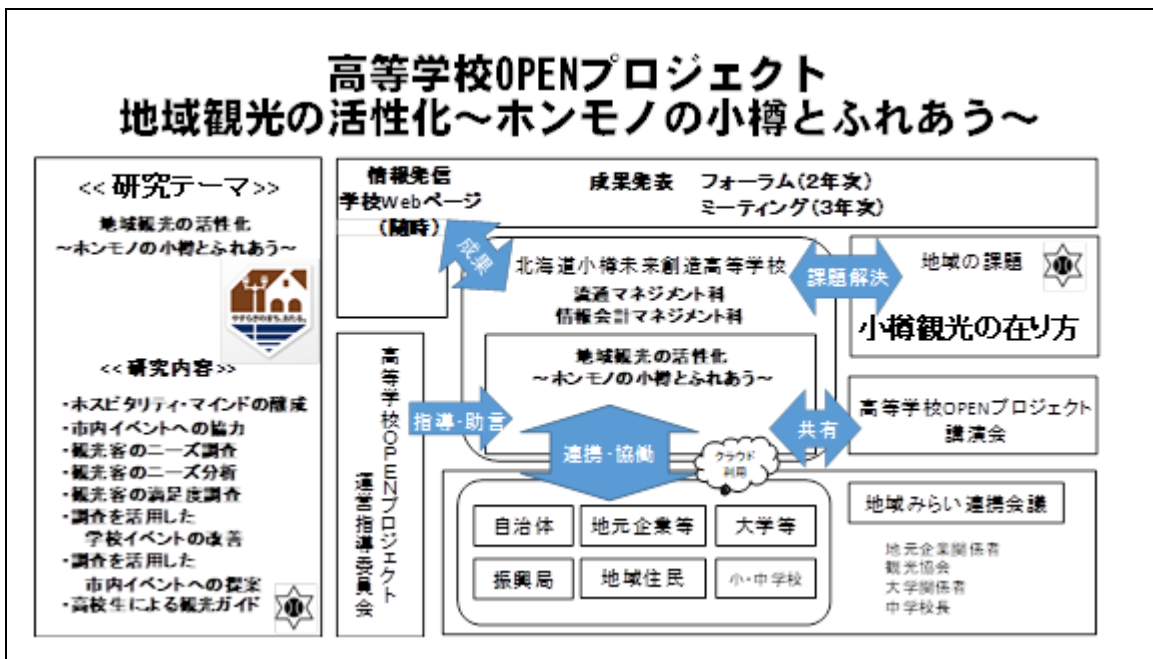
	<p>連携・協働機関：利尻屋みのや、小樽高等支援学校</p> <p>設備・機器：野点用道具一式、琴（「使用目的」抹茶および楽曲の演奏、外国人観光客に向けた体験型アクティビティの提供）</p> <p>タブレット（[使用目的]記録、アンケート集計、[使用頻度]毎時間）</p> <p>自動翻訳機（「使用目的」外国語による会話、[使用頻度]毎時間）</p>
7月	<p>○潮ねりこみ（3時間）</p> <p>「総合的な探究の時間」潮ねりこみの歴史の学習と参加</p> <p>「総合実践」潮ねりこみの活動内容を収録した地域プロモーションビデオの作成</p> <p>「課題研究」潮ねりこみ終了後の活動内容を資料映像として制作</p> <p>連携・協働機関：潮まつり実行委員会</p> <p>設備・機器：タブレット（[使用目的]記録、[使用頻度]毎時間）</p>
10月	<p>○地域みらい連携会議（第2回）</p> <p>○おたる案内人ガイド（6時間）</p> <p>「課題研究」おたる案内人のガイド研修および実践</p> <p>連携・協働機関：おたる案内人ボランティアガイドの会</p> <p>実施場所：小樽運河近辺</p> <p>設備・機器：タブレット（[使用目的]記録、[使用頻度]毎時間）</p> <p>○成果発表会</p>
2月	<p>○地域みらい連携会議（第3回）</p> <p>○雪あかりの路（5時間）</p> <p>「総合的な探究の学習」雪あかりの路キャンドル作成</p> <p>「広告と販売促進」雪あかりの路コマーシャル作成</p> <p>連携・協働機関：小樽雪あかりの路実行委員会</p> <p>実施場所：本校</p> <p>○活動報告会の実施、報告書の作成（6時間）</p> <p>「観光一般」活動記録のレポート作成</p> <p>「情報処理」プレゼンテーション作成・発表</p> <p>連携・協働機関：地域みらい連携会議</p> <p>実施場所：本校</p> <p>設備・機器：タブレット（[使用目的]プレゼンテーション、[使用頻度]毎時間）</p>

(別紙様式)

3月	<p>○おたる案内人検定（2時間）</p> <p>「ビジネス基礎」企業活動の基礎</p> <p>「観光一般」ホスピタリティ・マインドの醸成</p> <p>連携・協働機関：小樽観光大学校</p> <p>実施場所：本校</p> <p>設備・機器：タブレット（[使用目的]プレゼンテーション、[使用頻度]毎時間）</p> <p>○活動報告会の実施、報告書の作成</p>
----	---

4 研究組織

(1) 概要図



(2) 校内研究担当者

職名	氏名	担当教科・分掌等
教諭	福原真由美	商業 ・ 進路指導
教諭	田原和仁	商業 ・ 生徒指導
教諭	川村雅人	商業 ・ 総務
教諭	西村実	商業 ・ 教務
教諭	高橋陽	商業 ・ 進路
教諭	前田敦	商業 ・ 教務
教諭	奥原祥	商業 ・ 情報管理
教諭	阿部真一	商業 ・ 生徒指導
教諭	福田宏之	商業 ・ 教務
教諭	大西洋彰	商業 ・ 進路指導
実習助手	前田悠歩	商業 ・ 進路指導

(別紙様式)

(3) 連携・協働先

連携・協働先	具体的な連携・協働内容
利尻屋みのや 小樽商工会議所 小樽観光大学校 小樽市産業港湾部観光振興室 北海道小樽高等支援学校	「お茶会」会場（歴史館）の提供 ホスピタリティ・マインド講師の派遣 「おたる案内人検定」取得に係る講師派遣 「雪あかりの路」ガイドブック作成協力 「お茶会」における懐紙の提供及び「小樽雪あかりの路」における再生紙の提供

(4) 地域みらい連携会議構成員

所属・職名	氏名	備考（専門分野等）
利尻屋みのや・前社長	蓑谷 修	
小樽観光協会・理事	井上 晃	
小樽商科大学・准教授	王 力勇	
小樽市産業港湾部観光振興室・主幹	中村 寿春	
後志総合振興局・地域産業担当部長	新田 清文	

5 その他特記すべき事項

特になし

6 研究のイメージ図

